

ゆん・なんニュースレター

第32号

令和2年 6月 10日

今回からゆんたくニュースレターを「ゆん・なんニュースレター」に名称変更することにしました。

ゆんたくホームの「ゆん」と自立援助ホームなんくるの「なん」がリンクしました。「ゆんたく」「なんくる」では生活の流れが異なりますが、自立を目指すところは同じです。私たちスタッフは「ゆんたく」「なんくる」の子どもたちのより良い自立を描き日常生活支援全般に取り組んでいきます!!

長かった非常事態宣言が解除されましたが、コロナウィルスの脅威がなくなったわけではありません。感染予防のための所作は継続していきましょう!



「いつも、ありがとう! “フードバンク 京都” さん」

キッチンゆんたくの食材は、そのほとんど(お肉等の生鮮食品はのぞきますが)をフードバンク京都さんから提供していただいています。キッチンゆんたくがオープンした時からのお付き合いでもう5年になります。フードバンクさんからの提供がなければ、キッチンゆんたくを開催することができません。

フードバンクさんには感謝、感謝です。これからもよろしくお願ひします。

『フードバンク京都』は寄付してもらった食品を福祉施設・団体の協力で必要とする方に届ける、ボランティアによる「食糧支援」団体です。誰でも誰かの支えになれるという1人1人の善意に働きかける活動をされています。

フードバンクとは、安全で賞味期限も十分あるが、破棄されようとしている食品(フードロス)を、必要としている人々に無償で届ける活動のことで、フードドライブとは、家庭で余っている食べ物やお裾分けできる食品を、持ち寄って、必要としている福祉施設や生活困窮者へ無償で配布する活動をいいます。

「もったいない」から「ありがとう」への活動はゴミの減量化の取り組みでもあり、環境保全にも繋がっています。また、企業にとっては廃棄コストにも繋がっているようです。いろいろな面でいいことがある活動ですね。



ゆんたくホームのゆんたくさびら

(おしゃべりしましょう)

3か月のコロナウィルス休暇の後でようやく再開した学校に戸惑いながら登校しています。6月半ばまで、変則授業で学校のホームページを確認しながらの登校です。

衣替えしようにもまだ夏服も届いておらず、出来ずにいます。もう少しの辛抱ですね。Iちゃん!

アルバイトしている子たちも、コロナの影響でシフトが変わったり、少なくなったりで、嘆いています。

まだまだ、我慢の時ですね。



なんくるはなくなるないさ~

(なんとかなるよ~)

子どもたちも今回のコロナに関心を持って、日々の動向を気にしているようです。緊急事態宣言が解除

されましたが、まだまだ元の生活には戻れず我慢も多いです。先日は「給付金まだなのかな?他の市は

申請書来ているところもあるのに」と話していました。一人暮らしに向けて貯金、自分のやりたいこと

への投資など自分たちの自立に向けて有効活用するべく心待ちにしているようです。自立に向けて自身

で考えていてスタッフもうれしくなります。

がんばり張れ!



らいげつ 来月のキッチンゆんたくのご案内

2020年

7月16日(第3木曜日) 開催

よてい
予定メニュー

- ・ゆんたくカレー(当分の間はカレーでいきます)
- ・サラダ or フルーツポンチ



6月のキッチンゆんたく

メニュー

- ・ゆんたくカレー&ライス
テイクアウトです!!

5:30~6:30の間に
もらいにきてね。

子ども 50円

大人 100円

か し
お菓子もありますよ。



「ありがとうございます！」

“セブンイレブンホールディングス”様から西京社会福祉協議会を通じて、「バナナチップ」「皮付きポテトフライ」「ホワイト克蘭チチョコ」をいただきました。6月のキッチンゆんたくの時にわたすね。

地域のT様から玉ねぎ、M様からジャガイモと玉ねぎをいただきました。カレーに使わせてもらいます。また、近隣の会社K様から金一封いただきました。

かみしばい えほんしょうかい
紙芝居・絵本紹介

『モチモチの木』

さいとうりゅうすけ ぶん たきひらじろう え
斎藤隆介・文 滝平二郎・絵

モチモチの木がページいっぱいに広げた幻想的な風景が印象的な切り絵の美しい絵本、紙芝居です。

<あらすじ>

峠の猟師小屋にお爺さんと二人で住む豆太は5歳にもなったというのに一人でトイレにもいけない臆病者。トイレは外にあります、モチモチの木が枝を広げて恐ろしい出で立ちをしています。なので、豆太は夜中にトイレに行くときは必ずお爺さんを起こします。豆太が名付けたモチモチの木は、秋には艶のある茶色の実をつけます。お爺さんはその実でほったが落っこちるほど美味しいお餅を作ってくれます。

そんなモチモチの木に、今夜は特別なことが起こるとお爺さんは言います。夜になるとモチモチの木に綺麗な火が灯る「山の神様のお祭り」！それを見ることが出来るのは、たった一人の、しかも勇気ある子どもだと。その晩、お爺さんが腹痛で苦しみました。その苦しそうな姿を見た豆太は、裸足で峠の麓の医者のところまで一目散に駆け降りていきます。痛いやら寒いやら怖いやらで涙を目に浮かべる豆太ですが、お爺さんがいなくなるほうがもっと怖いことだと一生懸命に駆けていくのです。

豆太はお爺さんのもとに医者を連れてくる事ができるのでしょうか。そして、火の灯るモチモチの木とは一体何なのでしょうか。

ぜんかい しょうかいした 『はなさき山』 と同じ作者で、令和2年の3年生の教科書に掲載されています。

